Q：jam バンドのみんながよく飲むコーヒーや紅茶の銘柄や種類があれば教えて欲しい
A：夏は、学校の食堂から牛乳を買ってきて、香り豊かなダージリン、アッサム、アールグレイなどを使ったミルクティーが多い。
　最近（冬）メンバー内では、ニルギリ、ヌワラエリヤ、ディンブラに、砂糖もミルクも入れないで、クッキーの甘味を楽しみながら、ストレートな紅茶を飲むのがはやっている。
　珈琲は、カノンがはじめてサイホンで淹れたときに、粉の分量を間違えたようで、鮮やかな赤色の薄い珈琲ができた。だが、味はしっかりしており、ブラック（ストレート）で飲むと丁度いい美味しさ。この飲み方がメンバー内ではやっている。

Q:マリーちゃんの実家の詳細(ご両親や使用人などの人物や天音家との関係など)について教えて欲しい
A:マリーの両親の話は、公式が何か展開する可能性があるので、邪魔にならない程度に、それぞれの一族についてお話しします。
　御手師家は幕末時代から努力をしてきた成り上がりの富豪。一方で、天性の運と才能に恵まれた天音家。
カナとマリーの親世代は、全然気にもしてないのだが、マリーのお爺さんが天音家に対抗意識を持っている。
マリーのお爺さんは、カナ父のお爺さんと同級生。
御手師家は、対抗意識を燃やしていたが、カナ父のお爺さんは気のいいひとで、のほほーんとしており、それがまたマリーのお爺さんが頭にくるポイントになってる。
カナ父のお爺さんは 20 歳で結婚､その相手は同級生でマリーのお爺さんの初恋の人だった。
結局、マリーのお爺さんはバリバリ働き、45 歳で結婚。
子供を授かったときには、カナ父のお爺さんは孫（信）を抱いていた。
ただ、マリーのお爺さんは天音家の娘が誘拐されたときには、自分の持っているすべての力を使って探し回った。
お爺さんはマリーが大好き。マリーもお爺さんが大好き。
天音家は、才能豊かだが短命。

Q：鼓は「つづみ」と読むのになぜ鼓姉妹は「つつみ」なのか
A：「つつみ」の方がカワイイから。本当は、古典落語の演目に「西行鼓ヶ滝」（さいぎょうつつみがたき）という話があり、そこから取りました。
鼓家は、姉妹にする予定だったので「つづみ」だと太鼓のイメージになりすぎる。カノンをキーボードの担当に決めていたので鍵盤など打つイメージにしたかった。太鼓色を消すための「つつみ」。
　また、落語では西行さんという日本一の歌人になる僧侶が出てくるので、歌を詠む設定を鼓姉妹に入れています。だから jam バンドの歌詞は鼓姉妹なんですよ。

■Piece：徹平、真里
ふたりの出会いは小学5年生、病院に通うために真里が徹平の街に引越してきた。
徹平は、活発な子供で先生によく注意を受けていたので教卓前の席が定番。
真里は病弱で、転校してきてからも休んでばかり。身体のことも考えて教卓前の席（徹平のとなり）だった。
徹平がプリントなどを真里の家に届けたり、たまに学校に来た真里を気づかったり、卒業するまでに真里が一番会話をしたのは徹平だった。
中学生になってからは、真里の体調も良くなり、あまり休まなくなったので友達がたくさんできました。徹平とは、すれ違う時に目が合うくらいで会話がなくなる。そのまま卒業。
真里は病院に近い女子高校に、徹平は家から一番近い地元の高校に進学。
高1の時に徹平がギターをはじめる。
先輩（同バンド：ドラム）の家が地元の楽器店で、そのお店に入り浸る日々。
真里はギター部（アコギ）に入り、地元の楽器店で徹平と再会する。
ギターのアドバイス、ライブへの招待など、ふたりの交流がはじまりました。
……24歳で結婚……
病室では、香り高い珈琲は避けて、真里のために美味しい紅茶を入れる。
このひとときが、ふたりのあたたかくて、ほっとする時間になりました。
徹平は紅茶に詳しくなっていきます。

■Piece：信＆阿弥愛
富裕な家に育った阿弥愛は、ふたりの兄と妹の 4 人兄弟、高校までは信と同じセレブな学校に通っていた。高1の時に百貨店を経営していた父親が他界する。長男が事業を継ぐが、百貨店の経営不振と次男（レーサー）の浪費により阿弥愛が高3の時に破綻、豪邸を売ることになる。家事使用人は解雇、母は長男夫妻が引き取る。次男は独り暮らし、僅かな財産を受け取り、身寄りのない解雇されたばあやと妹を連れてアパートに 3 人で暮らす。ばあやは一度断ったが、阿弥愛の強い申入れに感謝しながら同意した。アルバイトをしながら手に職を得るため和裁の専門学校へ通う。
成人式は、ばあやが保管していた振袖を着て参加する。着付け、ヘアアレンジはばあやがやってくれた。成人式後に、高校時代の同窓会（パーティー）に参加するが、かつての同級生と住む世界の距離を感じる。パーティーの途中で帰ることにするが、ロビーで酒に酔った信（乾杯のシャンパンのみ）に出会う。タクシーで送っていくことにするが、嘔吐のため途中下車、阿弥愛のアパートが近かったため仕方なく連れて帰る。
ばあやと妹は、彼氏だと思い大歓迎。困り赤面しながら否定する阿弥愛。
翌日、迷惑をかけたお詫びと感謝で繰返し頭を下げる信、謝りながら阿弥愛の置かれている状況を把握するが、気丈に気品高く生きている阿弥愛の姿に、助けるというのは失礼だと感じ、そのまま立ち去る。

信は、むかし祖父が住んでいた小さい古い豪邸にひとりで住んでいる。小さいと言っても庭付 10LDK ほどの大きさはある。
手入れをしない庭に草が生え、見栄えが悪いと一族からクレームが入る。
海外のオーケストラから誘いがあり、2 年間の海外留学を決意する。だが祖父との思い出の詰まった家を手放したくない信は、阿弥愛に留守の間住んでほしいと提案、ばあやがいれば庭師の手配なども完璧だと思うので助けてほしいと懇願。阿弥愛は、庭師などの必要経費は負担してほしいが、電気ガス水道は自分たちで払うことを条件に請けることにするが……、引き落としなど支払い情報を変更するのが大変なので食費以外は信が負担したいと説得、しぶしぶ阿弥愛も了承する。
年に数回、帰国するときは信を含めた 4 人で食事をするなど交流が深まる。
現在も、ばあやは元気にカナの世話をしています。

■Piece：小太郎＆萌丹
萌丹は、スタイルは良いが、スポーツと学業は平均的なおっとりとしたお嬢さん。スローな話し方でマイペース、天然と言われることも多い。よく野良猫、野良犬が集まってくる。
（姿はカノンをおっとりとさせた感じ）
女子校卒業後、大学に入学してからは、たくさんの男性から告白を受けるが、いまは恋愛に興味がなく、女子友達と一緒にいる方が楽しいので断り続けている。テニスサークルに所属。テニサーのイケメン四天王こと、スペードのエース、四つ葉のキング（OB）、ハートのクイーン、ダイヤのジャックの 4 名にも告白を受けるが、すべて断った。
小太郎は、同じ大学の大学院生（博士課程）生物学を専攻している。校内の濁った元噴水や、テニスコート横の芝生などで昆虫や微生物を探している。ノートを片手に何時間でも同じ体制でじーっとしているので萌丹はおもしろい人だなーと思っている。最近のツボである。

大学の合宿研修施設を利用したテニサーの夏合宿で、四天王が萌丹を酔わせようとするが、酒を飲まず失敗、作戦 B に切り替える。ソフトドリンクに睡眠薬を入れるが分量がいい加減過ぎて、なかなか効き目が表れない。作戦 C に切り替える。倉庫兼合宿所となっている旧施設にテニスネットがあるから確認をしてほしいと萌丹を向かわせるが、地味目な女友達も一緒に向かうという想定外な展開になる。四天王内で、萌丹を襲うグループと、地味っ娘を襲うグループに別れることになり揉める。ジャンケンでキングとジャックが萌丹、エースとクイーンが地味っ娘を襲うことに決定。
旧施設に向かうが、山籠もりをしていた小太郎（旧施設に宿泊）が、たまたま戻ってきて萌丹たちを救う。背は小さいが柔道黒帯だった。

小太郎が戻ってきた経緯。
小太郎は、夏の生物を観察するために毎年合宿を行うが、ほとんど山に籠っているので、一

部倉庫になっている旧施設を利用している。一度山に入ると 7 日間は戻ってこない。四天王は、そのことを把握しており、計画の朝に小太郎たちが山に向かったことを確認していた。

小太郎は、いつも持ち歩いている研究ノートを旧施設に置いて来てしまった。「ま、いいか」と思っていたが、どうしても落ち着かないのでノートを取りに戻った。
萌丹が旧施設に向かうと、畳の部屋に小太郎の研究ノートが置いてあることに気がつく、普段から気になっていたノートを開くと細かくスケッチされた生物が描かれていて思わず見入ってしまう。そのうちに睡眠薬が効いてきてポケーっとしてくる。ふだんからポケーっとはしているが、いつもよりポケーっとなる。四天王が部屋に入ってくると、友達（地味っ娘）が事態を察して萌丹を庇うように立ちふさがる。地味っ娘を押し飛ばすように突き放すと、窓ガラスが割れ地味っ娘がケガをする。その時に小太郎が部屋に駆け込んでくる。萌丹はポケーっとしている。意識も記憶もあるがポケーっとしていた。

■Piece：じぃ
ベンチャーから上場させた IT 企業の元 CEO。仕事を成功させることが将来的には家族の幸せに繋がると考え、24 時間仕事を優先する日々を過ごした。家族は理解しており、いつも妻や娘には感謝していた。
事故で妻と娘を失う。
会社を辞職する。
繁華街で飲み歩く毎日、開いている店を渡り歩く、時間が深くなるにつれて危険な店に……。
そんな中、近くで飲んでいた男に仕事を持ちかけられる。車を運転するだけの簡単な仕事。
男の話では、むかし自分が飼っていた犬を奪い返したいとのこと。非合法な方法なので、あと腐れのない協力者を探しているとの話だった。
自分の犬というのは嘘だろうと思ったが、飲み代も底をついてきたので受けることにする。
時刻通りに、指定の場所に向かうと、予定より少し遅れて車が到着、その車に積まれていた麻袋を後部座席に置かれる。指定の場所に向かって車を走らせる。ミラーで確認すると麻袋は鈍く動くが犬の鳴き声は聞こえなかった。目的地に到着、出迎えた男たちが麻袋を下すときに、袋の縄がほどけて少女の足が見える。
そこから先のことは、あまり覚えていない……
報酬を受け取るために車を降りていた、自然と体が動き、麻袋の口を締め直そうとする男たちをなぎ倒し、縄をほどき、少女を連れ出すと助手席に乗せ、向かってくる男たちを蹴り倒してから、車を走らせていた。かなりの距離を走った、少女は無言だった、途中コンビニの駐車場に車を止めて、少女の汚れた顔をハンカチで拭いた。よく見ると死んだ娘と同じぐらいの年齢だった。
コンビニでおにぎりとお茶を買って少女に渡す。おにぎりを不思議そうに持ってみているので、封を開けてノリを巻いてから渡すと、まるで初めておにぎりを食べるような少女の姿

を見て、なんで子供が喜ぶような菓子パンやジュースを買わなかったんだろうと後悔しながら車を走らせる。
カーナビで警察署を調べて向かい事の顛末を話す。そのまま身柄を拘束される予定だったが、少女が男から離れないので、警察と一緒に男が少女を家族のもとまで送り届けることになる。後に、男は罪を問われることはなかった。改めて少女の家に謝罪に向かった。

少女の誘拐を計画したのは繁華街でキングと呼ばれる男だった。
大手企業に勤めていたが、OB として参加していたサークルで起こった婦女暴行未遂事件に関与したとして辞めることになる。その後、地下アイドルのプロデュース、派遣型風俗店の経営、アダルト動画サイトの経営と手広く事業を展開させるが、どれも上手くいかず、身代金目的の誘拐を計画する。いくつかの幼稚園を物色、その中で身なりは整っているが、いつも独りでいる園児に目を付ける。誘拐は、仲間内から足が付かないように、各パートに分け、それぞれが全体を把握できないように計画、想定外のことに備え、作戦も A～D まで充実させた。だが、繁華街で出会った酔っ払いが裏切るのは想定外だった。

■Piece：守野イブキ
小学校時代、「いびき」とか男子に揶揄われたが男子よりも喧嘩が強く負けなかった。
姉後肌なので、男女ともに頼られるが学級委員や生徒会長とかは、
自分には向いてないと思っているので、誰もやる人がいなければ仕方なくやる感じ。
実家が楽器屋を営む。いろいろな楽器を演奏できるがメインはサックス。
むかし父が組んでいたバンドメンバーの奥さんが亡くなり、同じ年頃の女の子がいるからと告別式に連れていかれる。口を一文字にして泪をこらえる、ひとつ年下の少女を見たときに、この子を護ってあげたいと思った。

■Piece：軽音楽部のギター5 人組バンド
リーダーには理想のバンドイメージがあった。それは中学時代に街のイベントで聴いたガールズバンドのイメージ。POP な生演奏を聴くのは初めてで鳥肌が立った。
軽音楽部に入部すると、新入生が全員ギターを希望するという恐ろしい事態に、自分の理想とするバンドを作るために、自分はギターを諦めてもいいと決意して、くじ引きを提案する。しかし、マキにとって、ギターは諦められるものではない。時には自分を励ますものであり、常に共にあったものだから。マキはくじ引きを反対して溝が生まれる。
マキは、部活という枠にとらわれないで、自分たちの音楽をやろうと提案し、自ら退部してソロ活動へ。そんなマキに、リーダーはギターバトルを挑む。交互に奏でるギター音は聴くものすべてを熱くして盛り上がる。バンドの形はひとつではないと気がつく。
中学時代に初めて聴いたクリームブリュレとは違う音楽だが、いまはとても楽しく演奏をしている。